

学校の大きな行事も終わり、教師も子どもも落ち着いた気持ちになる時期です。子どもたちにじっくりと自分自身をみつめさせ、自分を深める指導に力を注ぎたいものです。また、これまでのかかわりにより、子ども一人一人の個性もだいぶつかめてきたのではないのでしょうか。それらを生かして、学級諸活動の充実を図りましょう。



### <小学校>

#### 集中力がとぎれがちな児童をどうとらえるか

授業中にボーッとしている、あるいは離席が多く落ち着きがない児童については、行動の特徴や児童を取り巻く環境をとらえ（アセスメント）直しましょう。

- 1 どういうときに集中力がとぎれるか？
  - 2 集中力がとぎれる場面に共通点はあるか？
  - 3 友人関係や家庭環境に変化はあるか？
  - 4 発達障害等が疑われる傾向はあるか？
  - 5 ネット・ゲーム依存等、その他の問題か？ など
- より多くの目でアセスメントを行うために、職員同士で日常的な情報交換を行うことと、心配が大きい場合はケース会議を開いてもらうように相談しましょう。

◇次の点には、日頃から留意

- ・当該児童とゆっくり面談し、本人の気持ちを傾聴
- ・休み時間等の過ごし方や人間関係の把握
- ・教室環境や授業のユニバーサルデザイン化の推進

#### 授業公開で学級が育つ！

授業公開を、よりよい学級づくりの機会ととらえて、互いのよさに学び合うとともに、新たな指導の視点を見いだすチャンスにしましょう。そのためには、ありのままの姿を見ていただくことが大切です。

#### 授業づくり・学級づくりの悩みはオープンに

- ・自分の学級づくりの悩みを率直に語りましょう。
- ・語られた悩みに寄り添って、互いの悩みや経験を出し合しましょう。

#### 複数の目で子どもをとらえ直す機会に

- ・専科や養護の先生にも参観してもらい、担任以外の授業の姿との違いや、心身の健康に配慮を要する子どもの様子について聞きましょう。
- ・担任が日頃気付いていない子どものよさや課題が分かり、児童理解が進みます。



### <中学校>

#### 人をおもう心を育てる

「人をおもうようになっていく」ことは、その子の「人権感覚」の育ちに他なりません。それは、子どもたちの息遣いや教室の空気をやわらかく、そして、あたたかくしていきます。あらゆる場面で、生徒の人権感覚の育ちをとらえることにまず努めましょう。そして、生徒の育ちが語れるようにしたいものです。

※福祉施設のMさんとの交流を継続することで、T生は、Mさんの抱えている事実や背景におもいを馳せ、丸ごと受け止めていくようになっていきました。

「Mさんの淋しさはもっとずっと深いところにある。私たちの一回や二回の訪問で、そんなに簡単には変わらない。でも、この交流を続けていくことで、Mさんの心の中にある淋しさが、愉しさや嬉しさが変わっていく——そんなきっかけづくりができればいい。」と語ったT生。（他の生徒たちも同様でした。）



今度、一人一公開授業で先生方に授業を見てもらうんだけど…。  
☆子どもたち、緊張しないかしら。  
☆教科担任として、子どもや学級が育つ機会にしたいな。

#### 授業公開を学級集団づくりに生かす

#### かかわる教師みんなで学級集団をレベルアップ！

- ・互いに見合う機会を生かして、学級集団としての良さや課題をとらえ直しましょう。
- ・学級担任や他の教科担任と積極的に連絡を取り合い、気になる生徒の情報を共有しましょう。また、指導の工夫を意見交換した上で、共通認識のもと指導しましょう。

#### 参観者の声を、成長の実感につなげる！

- ・参観者の感想を生徒に伝え、生徒の成長を共に喜び、生徒自身が成長を実感できるようにしましょう。